

【夜さろん 第13夜】《心を掴んで離さない装丁の本》

Where's your freedom?

フレームのなかで、少年とも青年ともつかない、そのあいだを日々揺れ動くような三人の若い boys が水着代わりの白い半ズボンを着て、上半身裸で、湖なのか大河なのか後ろに広がる大きな水面に飛び込み、まさにいま着水しようとしている。その一瞬を切り取った一枚のポートレート。

この一葉の写真になにか感じるものがあるだろうか？

僕はここに——澆刺とした若さとこれから伸びゆくしなやかな身体の奥に——そっと映りこんだ“死の匂い”を、写真家の眼は見逃さなかった、と感じた。水面の手前、濡れたウッドデッキの上に、死の影のように彼らの不安定で像を結ばない姿が残されている。若さと死がセピア色のフレームのなかで宙吊りになって一斉に停止しているこの写真——すべての動きが、音が、時間が——には、生命力溢れる肉体や瑞々しい動きのすぐ隣に、それを喪い、あるいは奪い去るような“予感”が潜んでいることを、見事に切り取られている。撮影した Bruce Weber には、素晴らしい“生”と、それが成り立っている脆さの危うい同居のなかに、ある種の“畏れ”——“美しさ”が見えているのかもしれない。

“心を掴んで離さない装丁”というテーマを採用した背景に、十代のときに書店の店頭で思わず息をのんだ、そういう出来事がある。

次は、あなたの心を掴んだ出来事を、聴かせてください。

◆第13夜◆「心を掴んで離さない装丁の本」

日時:2015年2月20日(金)19:30~22:30頃

会場:Cafe:La ChouChou(カフェ ラシュシュ)(原宿・表参道)

<http://www.la-chouchou.jp/>

内容:

第1部【ブックーク】

- 1) “心を掴んで離さない装丁の本”というテーマで1冊お持ちください。
- 2) 本のどんなところが胸を衝いて迫ってくるのか順にご披露ください。
- 3) 全員からの紹介が終わったところで、“当夜いちばん胸を打った装丁本”を選出したいとおもいます。

※本やご紹介の優劣を判定するわけではなく、“当夜を代表して記録(記憶)する装丁本”を選ぶのが目的です。



第2部【ブック交換会】



- 1) 会の最後に本の交換会を行います。
- 2) 交換会に出したい本を自由に選んでお持ちください。
- 3) ブック交換は書名を伏せ、キーワードで行います。どんな本が届くかはお楽しみです。

※カードやラッピングなどは任意です。より雰囲気が出るかもしれません。

—ブックトーク— 【紹介者&ブックリスト】

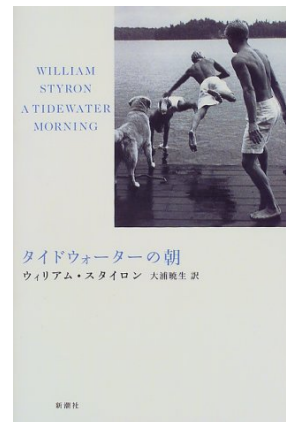
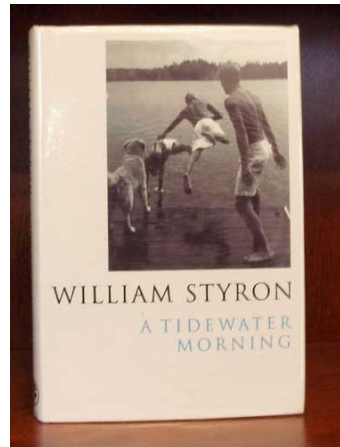
	おなまえ	書名	心を掴むポイント	印象的だったところ
1	Aさん	『星の時計のLiddell』 内田善美 集英社 (1985)	 	青空をバックに美しく乱れ落ちる薔薇が美しい。／当時から異色の作品。マンガなのに単行本とか。／表紙の女性に“見透かされる”ような感覚が、読後「ああそれで見てるのか」に変わる。／「心を掴むもの」を語りたいのに上手に語れない。言葉が出てこないのはなぜなの？
2	Bさん	『わが心のディーブサウス』 ジェームス・M・バーダマン (著), スティーブ・ガードナー (写真), 河出書房新社(2004) 『TAKE IVY』 林田昭慶 (写真) Power House Books (2010)	 	20c 初頭のアメリカ南部の写真になぜそんなに心を奪われるのか？／なぜその写真が“アメリカ南部”だと判別できるのか？／アメリカ文化の源流のひとつであるミシシッピ／親の本棚を眺めていた頃からの影響／親の本棚にあった本を、大人になって自分の興味関心の重なるものとして“再発見”すること。

<p>3</p>	<p>Cさん</p>	<p>『美女採集』 清川あさみ 講談社 (2012)</p>		<p>“語りたい”欲求をそそるもの／女性が女性を被写体にする。／自宅では日陰ものの本。この本に抱く淫靡さ(?)はどこから来るのか?／装丁での鳥かごに囚われた女性シルエットが醸すエロティシズム。／鳥かごはコレクション(所有)の暗喩か? 美女を“モノ”としてまなざしているのか?</p>
<p>4</p>	<p>Dさん</p>	<p>『GOGO モンスター』 松本大洋 小学館 (2000)</p> <p>『ひな菊の人生』 吉本ばなな (著), 奈良美智 (著) ロッキングオン (2000)</p>		<p>所有している中で一番装丁が魅力的な本。／“ブツ”としての本。所有欲を覚え、満たす側面からの本。／フェティッシュ／造本に仕掛けられた豪華な仕掛けと、値段に跳ね返っても売れることを可能にする“売れっ子作家”のチカラ。／紙、組版、色、スピン、花布…ある種のこだわりや豪華さ、贅沢の中に宿る“美”</p>

5	Eさん	『海がきこえる』 氷室冴子 徳間書店 (1993)			<p>思い出のページにかかった霧、その霧がだんだん晴れていくような物語に連動するかのように効果的に使われている“トレーシングペーパー”。／記憶のなかの“気になるあの子”を上手に描いた、水彩画＋色鉛筆のテイスト。輪郭線を描かずに、色で埋めていくタッチが、“思い出”の表現として秀逸。／自身もこういう絵が描きたいという、目標になるような装丁。／横顔に魅かれるという自身の性格を発見させてくれた本でもある。</p>
---	-----	--	--	---	--

—ブック交換会— 【キーワード&ブックリスト】

	キーワード	書名
1	Six (第六感)	『SWITCH Vol.33 No.3 ◆ COMME des GARCONS』 (スイッチパブリッシング、2015)
2	あなたがいちばんおいしいと思うものは？	『むかしの味』 池波正太郎 (新潮文庫、1988)
3	遠くへお引っ越し。そのあと。	『火星年代記』 レイ・ブラッドベリ (著), 小笠原豊樹 (訳) (ハヤカワ文庫 SF、2010)
4	寝顔が可愛いのは少し死んでいるからよ	『死んでしまう系のぼくらに』 最果夕ヒ (リトル・モア、2014)
5	冬の儂い輝き	『ダイヤモンドダスト』 南木佳士 (文春文庫、1992)



=====

【朝さろん】

テーマ：〈本棚拝見(リクエスト特集)(3)完〉

日時：2015年3月12日(木)am6:50～8:00頃

本：『パパ・ユーアクレイジー』ウィリアム・サローヤン
(新潮文庫、1988)(ワークショップ・ガルダ、1979)

定員：8名程度(要予約)

バリスタ(進行)：やぎ

【推薦者からのコメント】

サローヤンの『パパ・ユーアクレイジー』が好きなのでリクエストしてみました。ただ、好き過ぎて疑問を差し挟む余地がない感じなので頭を悩ませています。どんな内容になるかわたしにもまだ見えてません。でも「どうぞお楽しみに」って言ってみます。よろしくお付き合いくださいまし。(やぎ)

■開催概要■

《朝さろん》原則、毎月第2木曜日(但し1月は第3木曜日)

【夜さろん】 第14夜

テーマ：「(後日掲載)」

日時：2015年5月15日(金)19:30～22:30頃

場所：表参道・渋谷駅近く(ご予約頂いた方にご連絡します)

定員：10名程度(要予約)

バリスタ(進行)：芹澤

内容：

(後日掲載)

■開催概要■

《夜さろん》原則、2月、5月、8月、11月の第3金曜日

=====